

第6学年 社会科学学習指導案

1 単元 日本歩み「(6) 明治維新から世界の中の日本へ」(前半7時間)

2 目標 ((1) 歴史ーキ明治維新)

- 我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かる。(理解)
- 黒船の来航、明治維新、文明開化に関する人物の働きに関心を持ち、意欲的に調べるとともに、我が国の歴史を大切にしようとする。(態度)
- 黒船の来航、明治維新、文明開化などの事象の意味や人物の働きの意図を、複数の資料を関連付けて調べることができる。(能力)

3 本単元で活用を図る「読解力」

「取出」黒船の来航、明治維新、文明開化における事象や人物の働きについて、資料を要約することができる。

「解釈」黒船の来航、明治維新、文明開化などについて資料から事象の意味をとらえ、欧米の文化を取り入れつつ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い近代化を進めた人物の働きの意図が分かる。

「熟考」先人の業績に対する理解を深め、その考え方や生き方に対して自分の考えをもつことができる。

※ 「読み方」の重点

- 段落と段落を比べて、共通点と違いを読む。[連テ]
- キーワードを、他の文章とつないで敷衍して読む。[連リ]
- 接続語を基に段落と段落を比べて、事例の数や事例の順序、事例の関係から、筆者の段落設定の意図を読む。[連ハ]
- 複数のテキストの情報を、その共通点や相違点から関連付ける。[非コ]

4 指導観

- 本学級の児童は、下記の二つの調査から、めあてに対する「取り出し」はできるが、「解釈」「熟考・評価」は不十分であり、書く活動に抵抗があるという実態が分かっている。まず、読解力の調査では次のような結果が出ている(表一1)。

表一1 本学級児童の「読解力テスト」結果

	得点率 (%)			得点率が 50% 以下の児童数 (34 名中)
	その 1 問題	その 2 問題	合計平均	
「取り出し」	82.4	80.6	81.5	5 名
「解釈」	54.9	54.9	54.9	19 名
「熟考・評価」	53.7	50.9	52.3	16 名

この結果から、児童の読解力において、「解釈」「熟考・評価」に課題があることが分かる。特に、「解釈」に関しては、過半数の児童が 50% 以下であり、「解釈」できる児童とできない児童の差がはっきりしている現状がうかがえる。

次に、意識の調査では次のような結果が出ている(表一2)。

表一2 「社会科における書く活動の意識調査」(4 尺度選択) 結果の市内 9 校の児童と本学級児童の比較

	質問項目	肯定 2 尺度の割合 (%)		
		※市内	本学級	比
関心意欲	社会科の学習は好きですか?	76	70	▼ 6
読解	教科書などの文章や、図、グラフ、表から、問いやめあてのに対する答えは分かりますか?	85	77	▼ 8
書く活動	授業で考えを書く活動はありますか?	93	89	▼ 4
①	その時、何をどのように書くか分かって書くことができ	83	77	▼ 6

	ていますか？			
	考えを書くことは好きですか？	70	50	▼ 20
書く活動	授業の終わりにまとめを書く活動はありますか？	94	86	▼ 8
②	その時、何をどのように書くか分かって書くことができますか？	82	72	▼ 10
	まとめを書くことは好きですか？	70	44	▼ 26

※「市内」＝福岡市小学校9校の4年生 867 人を対象に実施
各意識とも、市内全体と同様、あるいは低い様相を呈している。書く活動が「好きですか？」の問いに対する値が低く、書く活動への抵抗感が顕著となっている。それは、「解釈」の低得点率からも分かるように、何を書けばよいのかが分からない、すなわち「解釈」が分からないために、書く活動への抵抗感が大きいのではないだろうか。

- 本小単元は、第6学年の内容（1）キに基づいている。

内容（1）キ 黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。

黒船の来航については、ペリーの肖像画や黒船来航の錦絵などから、ペリーが率いる米国艦隊の来航が江戸幕府や当時の人々への影響を考える学習を展開することによって、我が国が開国し、江戸幕府が倒れるきっかけになったという歴史的価値を児童に学ばせることができる。

明治維新については、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允のエピソードや資料などをもとに明治政府の諸改革について調べる学習を展開することによって、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らの働きによって明治天皇を中心とした新政府がつくられたこと、勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより戦いをせずに江戸城の明け渡しが行われたこと、明治天皇の名による五箇条の御誓文が發布され新政府の政治の方針が示されたことが分かり、新しい時代が始まり、廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代的な政治や社会の仕組みが整ったという歴史的価値を児童に学ばせることができる。

文明開化については、「学問のすゝめ」を手がかりとして福沢諭吉が欧米から取り入れた新しい文化や考え方を調べる学習を展開することによって、福沢諭吉が欧米の思想を紹介するなどして欧米の文化が広く取り入れられたことが分かり、人々の生活が大きく変化したという歴史的価値を児童に学ばせることができる。

このように、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の仕組みが整い、欧米の文化を取り入れて我が国の近代化を進めたことを、「黒船の来航」「明治維新」「文明開化」の学習を通して分かるようにすることができる。

- そこで指導にあたっては、めあてを達成するために、主に文章資料の要約によって「情報の取り出し」を行い、その中の疑問を原動力として、国語科説明文の「読み方」を活用しながら「テキストの解釈」を行うようにする。

具体的には、まず、非連続型テキストの「読み方」を活用して黒船来港の錦絵を読み取り、「黒船がやって来て、日本はこれからどうなるのだろう。」という本小単元の学習問題をつくる。

次に、「大統領からの手紙」「開国後の人々の暮らし」「渋染一揆」「幕府が倒れる」「五か条の御誓文」「五箇条の掲示」「喜びで迎えられた『解放令』」「横田翁の日記」「豊かで強い国をめざして」といった文章資料を、国語科説明文の「読み方」を活用しながら読み取り、要約するとともに、深い解釈を書く【書く活動1】を各時間で行う。さらに、文章資料の言葉の意味への疑問を基に、文章資料同士を比較・関連付けたり、「農民の一揆と打ちこわしの件数」「就学率の変化」といった非連続型テキストであるグラフと関連付けたり、自分の知識や経験とつないで想像したりして、【書く活動1】を深める話し合いを展開する。最後に、板書を基にして、キーワードを問い、「今日の学習で」として本時学習をまとめる【書く活動2】を行わせる。

5 学習指導計画（7時間）

過程	時	主な学習活動と指導上の留意点(※)
つ黒 か船	1	◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連：連続型 非：非連続型] 1 単元名から学習の見通しをもち、黒船来航の錦絵を基に、学習問題をつくる。 (1) 単元名から、分かることを出し合う。

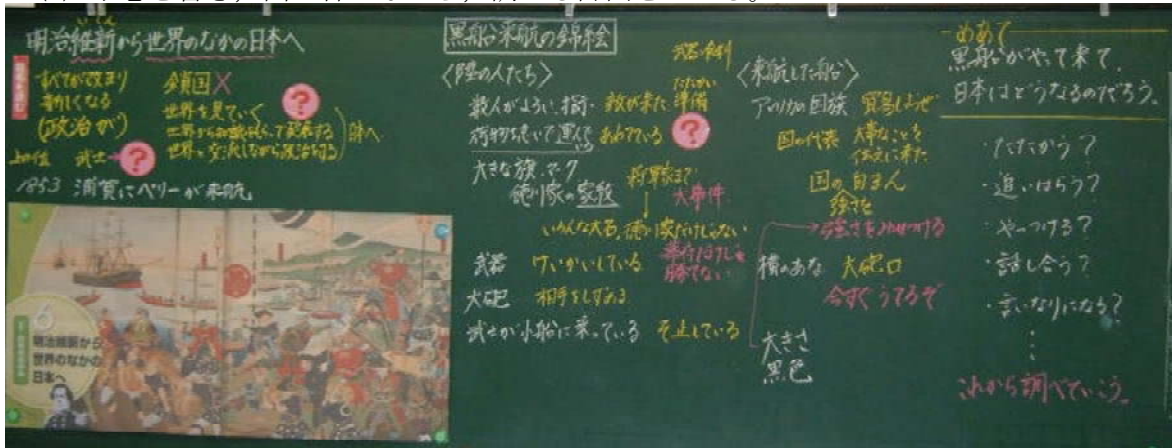
むの
来
航
て④
る

し
ら
べ
る
ま
な
び
あ
う

- ※ 「維新」の意味や「世界の中の日本」の意味を問い、「すべての始まり」「鎖国をやめて世界と交流しながら政治を行う国になる」といった予想を立て、どのように変わっていくのか学習の見通しを立てる。◆[連列]
- (2) 絵画資料「黒船来航錦絵」を読み取り、学習のめあてをつかむ。【書く活動1】
 - ※ 陸の人たちと来航した船双方について、気付いた様子と、そこから分かったことや考えたことを書かせる。◆[非列]
 - ※ 行動と気持ち、細かい部分の様子と広い範囲の様子といった観点を示す。◆[非列]
 - ※ あわてている陸の人々と、強さを見せつけている黒船の違いから、これからどうなるのか問い、学習問題につなげる。

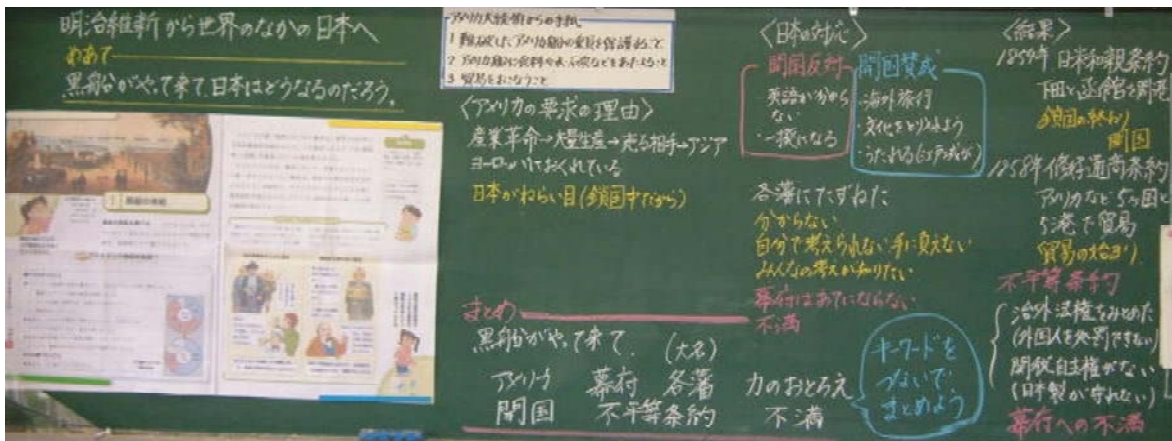
学習問題
黒船がやって来て、日本はこれからどうなるのだろう。

- (3) 予想を書き、出し合いながら、調べる計画を立てる。



2 2 黒船来航について調べる。

- (1) 大統領からの手紙を読み取る。【書く活動1】
 - ※ 3要求のうち、どの要求が真意なのか、歴史背景や自分の生活場面での要求の仕方とつないで、要求順の意図を読む。◆[連へ]
- (2) 日本の対応について考え、開国反対・賛成に分かれて、ミニディベートを行う。
 - ※ 幕府が各藩に尋ねた事実を知らせ、幕府への信頼が揺らいだことを実感させる。
- (3) 不平等条約について知り、結ばざるを得なかった幕府の立場と人々の不満を考える。
 - ※ 国力の違いという背景と、条約の理不尽さを問い、そうするしかなかった幕府への理解と、人々の不満の食い違いをとらえさせる。
- (4) まとめる。【書く活動2】
 - ※ 「アメリカ、幕府、各藩、力の衰え、開国、不平等条約、不満」のキーワードを与える。



3 3 開国の後の人々のくらしや幕府の政治について調べる。

- (1) 教科書「開国後の人々のくらし」を読み、キーワードに線を引き、黒船来港の頃の日

本と、開国後の日本の人々の暮らしを要約する。【書く活動1】

※ ③段落の「さらに」「開国して」に着目させ、①②段落は開国前、③段落は開国後と確認させる。◆[連判]

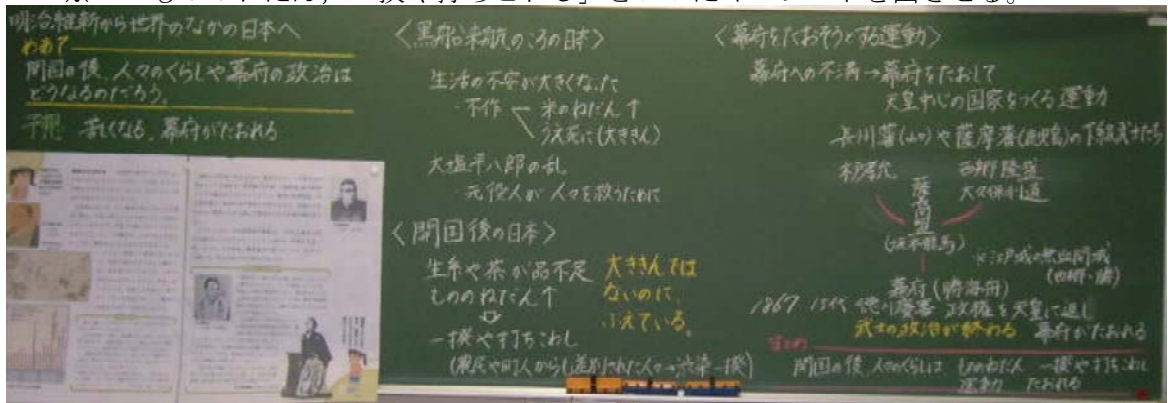
(2) グラフ「農民の一揆と打ちこわしの件数」に着目させ、その原因を教科書の言葉から探す。

※ 大飢饉ではないのに一揆や打ちこわしが増えていることから、開国後の品不足による生活の変化を実感させる。

※ 農民や町人からも差別された人々による汚染一揆は、そうした不満が渦巻く中でこの制約であったことと、古着の紋入りさえ着られなくなるという弊害もあったことを説明するとともに、「団結して立ち上がり」の歴史的価値について考えさせる。

(3) まとめる。【書く活動2】

※ 「もののねだん、一揆や打ちこわし」といったキーワードを出させる。



4 4 開国の後、政治がどうなるのか調べる。

(1) 教科書「幕府が倒れる」の要点から、幕府を倒そうとする運動をまとめる。◆[連判]

※ 倒幕運動の目的を問い、過去の天皇中心の国家づくりを振り返る。◆[連判]

※ 西郷、大久保、木戸の画像を用意し「力を合わせた」ことを視覚的にとらえさせる。
※ 大政奉還によって「武士の世の中が終わりました」が、大きな意味段落の区切りとなっていることをとらえさせる。◆[連判]

※ 薩長が「力を合わせる」ことができた理由を問い、資料の必要性を高める。◆[連判]

(2) 「力を合わせて」の舞台裏の二人の共通点と相違点を読む「読み方」を確認し、文章資料から分かった点を書く。【書く活動1】

※ 線を引かせてから書かせる。◆[連判]

(3) 二人の共通点を話し合う。

※ 机間指導で、国際的視野に立ち国全体のことを考えている考え方や、他と交渉する力に長けている点をチェックし、発言させる。

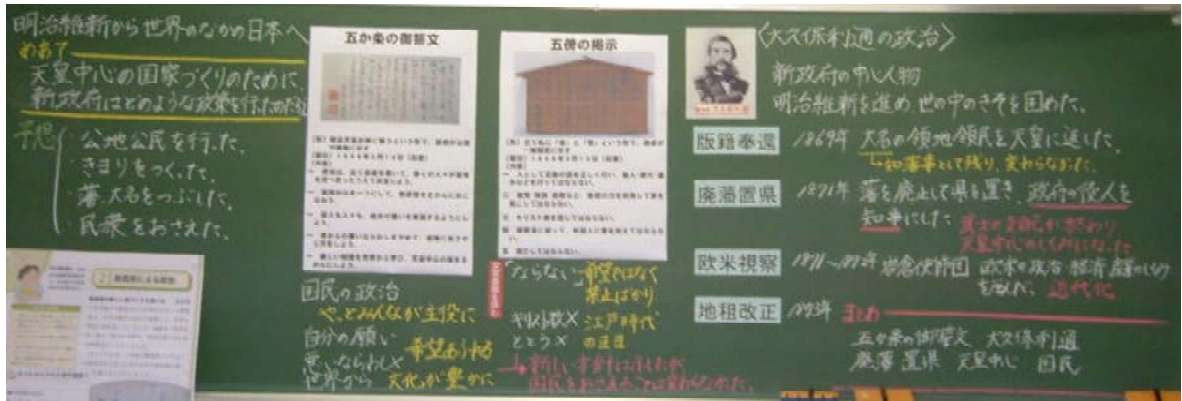
(4) まとめる。【書く活動2】

※ 「薩摩藩長州藩、運動、勝海舟、坂本龍馬、政権」のキーワードを提示する。



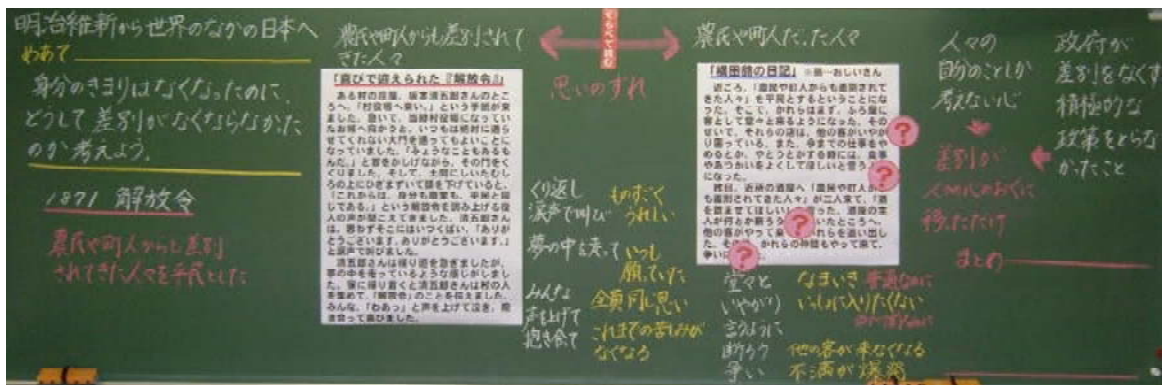
5 5 新政府による政治について調べる。

- (1) 資料「五か条の御誓文」と「五俵の掲示」を比較する。【書く活動1】◆[連判][非判]
 ※ 文末表現に着目させる。◆[連判]
 (2) 大久保利通の政治について調べる。
 ※ 版籍奉還、廃藩置県、欧米視察、四民平等に関して、要点をまとめる。◆[連判]
 (3) まとめる。【書く活動2】
 ※ 「五か条の御誓文、大久保利通、廃藩置県、天皇中心、国民」のキーワードで書かせる。



6 6 解放令は出されたが、差別がなくならなかったわけを調べる。

- (1) 文章資料「喜びで迎えられた『解放令』」と「横田翁の日記」を読み、概要を知る。
 ※ 清五郎さんの様子を想像するために家に帰り着いて村の人を集めて「解放令」のことを伝えたところを想像させる。◆[連判]
 ※ 「ふる屋の主人」「農民や町人だった人」「農民や町人からも差別されてきた人」の様子を想像させ、差別が潜在化、陰湿化した理由を実感させる。◆[連判]
 (2) なぜ差別がなくならなかったのか自分の考えを書く。【書く活動1】
 ※ 二つの資料を比較させる。◆[連判][連判]
 (3) 話し合い、まとめる。【書く活動2】
 ※ 差別はいけないことだが、どの立場にも言い分があることを出し合い、もう一つの立場である「明治政府」について考えさせ、段階的な政策の必要性をとらえさせる。◆[連判]



7 7 新政府の改革下での人々のくらしの変化を調べる。

- (1) 教科書「豊かで強い国をめざして」を読み、要点をまとめる。
 ※ 形式段落を付けさせ、小見出しに直接つながる段落を見付けさせる。◆[連判]
 ※ 接続語に注意してまとめさせる。◆[連判]
 (2) まとめた要点を出し合いながら、人々のくらしがどのように変わったのか想像する。
 ※ 小見出しと①段落をつなぎ、「豊か」「強い」の意味をとらえさせる。◆[連判]
 ※ なぜ「徴兵制度」と「地租改正」が同じ段落に書かれているのか考えさせ、働き手

がいなくなっても納税額が変わらないようにセットになっていることに気付かせる。

◆[連へ]

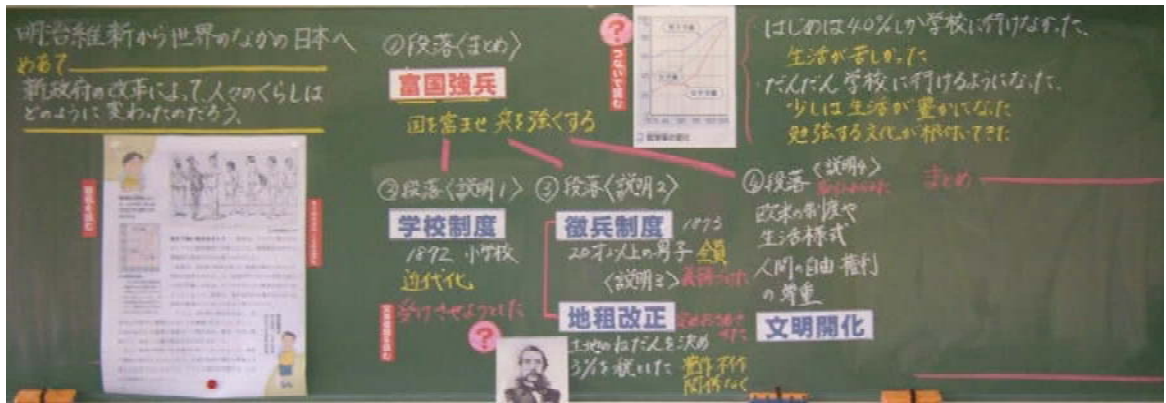
(3) 「学校制度」の文末が「受けさせました」でなく「受けさせようとなりました」となっていることに疑問をもたせ、グラフ「就学率の変化」をつないでその理由を書く。【書く活動1】

※ 年ごとの変化，男女の違い，その理由を読むという，グラフの「読み方」を確認して書かせる。◆[連ナ][非ナ][非コ][非ナ]

(4) 話し合い，まとめる。【書く活動2】

※ 就学率が上がったのは，負担軽減や，「学問のすゝめ」を著した福沢諭吉の欧米から取り入れた新しい文化や考えだったことを，教科書資料とつないで読ませる。◆[連ナ]

※ 新政府の改革によって人々のくらしがどのように変わったのか，キーワードを決めて書きまとめさせる。



ひろげる

6 本時の目標（4／7 倒幕運動）

- 勝海舟の弟子坂本龍馬の仲立ちもあって薩摩・長州藩が力を合わせた倒幕運動により，徳川慶喜は政権を天皇に返し，700年ほど続いた武士の世の中が終わったことを理解することができる。
- 倒幕運動に関する人物の働きを，意欲的に調べることができる。
- 倒幕運動に関して，どうして薩長が力を合わせることができたのか，他の資料と関連付けて文章資料中の疑問を解決し，調べることができる。

7 本時指導の考え方

児童は前時までには，開国前後の人々のくらしの変化や，幕府への不満など，幕末期における動向を学習してきた。

本時は，「開国の後，幕府の政治はどうなるのだろう。」という疑問のもと，倒幕運動の結果，大政奉還して幕府が倒れるまでを明らかにする学習である。

そこでまず，本時のめあてを確認した後，幕府を倒そうとする運動について書かれている文書資料の要点をとらえさせるために，めあてや小見出しにつながる箇所に線を引かせる。その際に，段落毎にまとめていくように助言する。列指名し，天皇中心の政治を目指した倒幕運動についての概要を確認した後，仲違いしていた薩長が「力を合わせ」たのはなぜか疑問をもたせるように問い返しを行う。

次に，その文章資料だけでは解決しないことから，別の文章資料「勝海舟と坂本龍馬」を提示し，関連付けを図る。なお，その文章資料の解釈は，題名の「と」に着目させ，二者の関係性をめあてに読ませる。比較する視点は，相違点と共通点であり，特に「力を合わせ」につながるのは「国を富ます」「国全体のことを考える」といった共通点である。そこで，共通点に線を引かせた上で，その内容を書かせる（【書く活動1】）。そして，書いたことを基に話し合う中で，人物，特に坂本龍馬の考え方に共感させ，元の文章資料の疑問を解決するように関連付ける。

最後に，板書で本時学習を振り返り，「薩摩藩・長州藩」「運動」「政権」「勝海舟」「坂本龍馬」をキーワードとして【書く活動2】を行う。

8 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
1 本時学習のめあてをつかむ。	◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連：連続型 非：非連続型] ※ 教室掲示の学習の足跡で、開国の後の人々のくらしの変化を振り返り、幕府への不満から、学習のめあてをつかませる。
開国の後、幕府の政治はどうなるのだろう。	
2 倒幕運動について調べる。 (1) 文章資料「幕府がたおれる」を読み、要点を書く。 ○ ③段落：不満 薩摩藩・長州藩 西郷隆盛・大久保利通 木戸孝允 両藩が力を合わせて朝廷とも手を結んで幕府をたおす計画 ○ ④段落：15代将軍徳川慶喜 政権を返す 700年ほど続いた、武士の世の中が終わる (2) 書いた要点を発表し、めあての答をまとめ、疑問をもつ。 ○ 二者だったらたおせる。 ○ 案が生まれる。(兵力、武器、食料) (3) 文章資料「勝海舟と坂本龍馬」を読み、相違点と共通点を書く。【書く活動1】 ○ 勝海舟と坂本龍馬の相違点 ・勝：幕府の海軍操練所責任者 坂：土佐藩脱藩の浪人 →立場の違い ・勝：教育者 坂：勝海舟の弟子 →師弟関係 ○ 勝海舟と坂本龍馬の共通点 ・勝：国を富ますべきだ 坂：国全体のことを考えるべきだ →国益第一主義 ・勝：江戸にせめこんできた新政府軍の西郷隆盛と交渉し、江戸城を明けわたす ・坂：対立する薩摩藩と長州藩の手を結ばせた →ずばぬけた交渉力 (4) 共通点を確認し、薩長が「力を合わせ」ることができた理由につなぐ。 ○ 国全体のことを考え、しかも交渉力	※ めあて「幕府の政治がどうなるのか」や小見出し「幕府がたおれる」につながる言葉を探させたり、段落の中で最も重要な文を探させたりする「読み方」を提示して、線を引かせる。◆[連ス] ※ 列指名により、書いた要点を出させる。 ※ 「力を合わせ」に関して、もともと薩摩藩と長州藩が仲違いしていることを補足説明する。 ※ 薩摩藩は貿易によって裕福だがお米ができていない土地であること、長州藩は外国船打ち払いによって窮乏しているがお米は豊富であることといった、お互いの利害関係が一致していることも、補足説明する。 ※ 「力を合わせ」とはどういうことか想像させ、その裏にはある人物の活躍があったことを知らせ、疑問の解決に向けての意欲を高める。 ※ 書かせる前に、相違点と共通点に線を引かせる。◆[連テ] ※ 机間指導しながら児童の読み取りを把握し、書けていない児童には個別指導を行う。 ※ 勝海舟と坂本龍馬の写真と文章資料を板書に位置付け、構造的な板書とする。 ※ 発問・指名・問い返しを繰り返しながら出し合

に長けた坂本龍馬の働きによって、薩長が「力を合わせ」ることができた。

わせ、深めていく。

※ 坂本龍馬の人物像を「力を合わせ」と関連付け、理由として確認する。 ◆[連ノ]

3 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。

(1) キーワードを確認する。

○「薩摩藩・長州藩」「運動」「政権」「勝海舟」「坂本龍馬」

※ 板書を基に、倒幕運動と坂本龍馬の働きを振り返り、キーワードを問う。

(2) 「今日の学習で」を書きまとめる。

【書く活動2】

※ キーワードを使っているか助言しながら、机間指導を行う。

(3) 数名が発表する。

9 本時の授業プラン



1. ああ確認

2) 幕府をおろす運動
ア-ラインの確認

3) 段落

不満 → 倒幕運動
薩・長 協力
朝廷のチキン

4) 1867 15代 政権を返す
※ 2007年頃の武士の世の中が終った

(2) ①のくり
7代合戦とは?
何かがお人々に伝わった?

* 実は、その裏には、この人物の活躍があった。

(3) 勝海舟と坂本龍馬の資料活用

① 写真提示
② 文章資料音読
50ページはア-ライン
100ページは

③ ちがうところを
書き出す

4) 発表
① 指名
② 問 → ①の通り
③ 相違
④ 相違
⑤ 相違

相違
立場 → 幕府の侵入
筆鋒 → 開成 = 薩長
相違
考案 → 国際的視野
国全体

3. せつ
1) キーワード提示して、学習の
運動 薩摩藩・長州藩
政権 勝海舟・坂本龍馬

2) 指名発表
(例) 開国の後、幕府をおろす運動が、薩摩藩と長州藩により、1867年、将軍のついでに政権を天皇に返した。国際的視野に立ち、国全体のことを考えた勝海舟や坂本龍馬の力があつた。

表-3 連続型テキスト(説明的文章)の「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	連続型テキスト(文章)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 事実と意見を区別する力(文種判断) 2 大事な言葉を見付ける力(キーワード発見)	ア 文末表現から事実と意見を区別する イ 題名や文章の言葉の意味に疑問をもつ(5W1Hで?)を作る ウ 指示語の指す言葉を見付ける エ 題名の類縁語や題名につながる言葉(キーワード)を見付ける オ 疑問詞や文末表現を基に、問いの文を見付ける カ キーワードや文末表現から理由になる文を見付ける キ キーワードや文末表現から問いの文に対する答の文を見付ける
	3 大事な言葉を基にまとめる力(要約)	ク 形式段落に番号を打つ ケ 形式段落の中の最重要文を題名や問いの文とつないで見いだす コ 形式段落の中のキーワードを見いだす サ 時間の順序や事柄の順序を読む シ 接続語を基に主張と事例を区別する ス 形式段落の要点をまとめる セ 接続語や形式段落の要点を基に文章を意味段落に分け、小見出しを付ける ソ 意味段落の小見出しや形式段落の要点を基に、文章全体を要約する
II テキストの解釈	4 言葉と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 5 言葉を外したり比べたりして意味を理解し説明する力(比較) 6 言葉と言葉などをつないで意味を理解し説明する力(関連付け) 7 事例にキーワードバックして抽象的な言葉の意味を理解し説明する力(関連付け) 8 筆者の意図を推論し説明する力(推論)	タ 題名やキーワードを、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む チ 修飾語などの言葉を外して比べ言葉の意味を読む ツ 類縁語と比べて、言葉の意味を読む テ 段落と段落を比べて、共通点と違いを読む ト 別の助詞に置き換えて、助詞の意味を読む ナ 別の文末表現に置き換えて、文末表現の意味を読む ニ 段落の中で、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで、文脈における固有の意味を読む ヌ 段落を越えて、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで文脈における固有の意味を読む ネ さし絵や写真などと言葉をつないで、言葉を敷衍して読む ノ キーワードを、他の文章とつないで敷衍して読む ハ まとめの段落の言葉を、外したり比べたりして読む ヒ それまでの言葉や事例とつないで、まとめの段落の言葉の文脈における固有の意味を読む フ 題名とまとめの段落の言葉の意味をつないで、要旨をまとめる ヘ (接続語を基に)文と文、段落と段落を比べて、繰り返し表現、事例の数や事例の順序、関係から、筆者の設定の意図を読む ホ 引用の意図を読む マ 題名に返り、この題名で何を伝えようとしていたか、筆者の意図を読む
III 熟考・評価	9 筆者の主張や意図に対する自分の考えをもち、論述する力(内容批判) 10 文章の表現方法(論理展開や表記)の妥当性を評価する力(表現批判)	ミ まとめの段落への納得や驚きの実感を表現する ム 筆者の主張や筆者の意図と、自分の見方・考え方を比べて、感想をもつ メ 筆者の論理展開に対して感想をもつ モ 筆者の表記(書き表し方)の特徴を見付けて感想をもつ ヤ 筆者の論理展開を活用して、他の対象で再構成する

表-4 非連続型テキストの「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	非連続型テキスト(図、グラフ、表)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 各種のテキストから必要な情報を読み取る力(言語化・数値化)	ア 表題や出典などを確認する イ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、矢印や括り、位置などから、上位・下位概念、包含関係、時間経過などを言語化する(図) ウ 国語科の既習を活用し、言語化する(写真・絵) エ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、方位、縮尺、地図記号、土地の高さ、分布項目などに留意して言語化する(地図) オ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、縦軸と横軸に着目して数値化する(グラフ) カ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、項目に着目して(二次元表の場合はクロスの意味も考えて)言葉や数値を取り出す(表) キ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、時代名や年号の並び、関連する出来事に着目して、情報を取り出す(年表)
II テキストの解釈	2 情報と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 3 情報の違いや変化を理解し説明する力(比較) 4 他のテキストとの関係を理解し説明する力(関連付け) 5 社会的事象の意味を理解し説明する力(関連付け) 6 テキストを提示する意図を推論し説明する力(推論)	ク 目的に応じて、一部分を詳しくとらえたり全体を大まかにとらえたりして、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む ケ テキストの情報を比較し、共通点や相違点を見いだす コ テキストとテキストの情報のつながり方が分かり、関係を認識する サ 一つのテキストの中や、複数のテキスト間における関係の認識を基に、因果、包含、変容、深化、具体化(拡張、多面化)、抽象化(収斂)などの関係性を見いだす シ 意味認識を基に、提示者の主張の明瞭性、具体性、強調性を明確にする
III 熟考・評価	7 関連付けるテキストの種類を妥当性を評価する力(内容批判) 8 関連付けるテキストの表現の妥当性を評価する力(表現批判)	ス テキスト提示の目的に合致しているかどうか、他の種類のテキストと比較して検討する セ テキスト提示の目的に照らして、テキストの範囲(部分⇄全体)や明瞭性を検討する